

## [成果情報名]超強力小麦「銀河のちから」の高品質安定栽培法

[要約]「銀河のちから」の収量を確保するため播種量は6~8kg/10aとし、過剰な生育による容積重及び原粒タンパク質含有率の低下を防ぐため融雪期窒素追肥は収量水準と越冬後茎数に応じて2~6kg/10aの間で調節する。

[キーワード]超強力小麦、銀河のちから、播種量、融雪期窒素追肥

[担当]岩手県農業研究センター技術部作物研究室

[代表連絡先]電話 0197-68-4417

[区分]東北農業・畑作物（畑作物栽培）

[分類]普及成果情報

### [背景・ねらい]

平成25年度に岩手県奨励品種に採用された超強力小麦「銀河のちから」は、「ゆきちから」等とブレンドすることにより製パン性が向上する優れた加工特性があり、県産小麦100%の学校給食パンや、中華めん、パスタなど、幅広い普及利用が期待されている。そこで、「銀河のちから」の収量を確保するための播種量と、過剰な生育を防ぎ容積重・原粒タンパク質含有率を低下させないための融雪期窒素追肥法を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 播種量を6~12kg/10a（150粒~300粒/m<sup>2</sup>）とした場合、播種量が多いほど茎数は多くなるが、成熟期の穂数は同程度となる。しかし、播種量10kg/10a以上では収量が低下する（図1）。従って「銀河のちから」の収量を確保するための播種量は6~8kg/10a（150粒~200粒/m<sup>2</sup>）とする。
2. 容積重・原粒タンパク質含有率は、収量が増加するにつれて低下する傾向がある（図2、3）。このため、過剰な生育を招かないよう、融雪期窒素追肥は目標とする収量水準を定め越冬後茎数に応じて2~6kgの間で調節する（図4）。

収量水準(kg/10a)	越冬後茎数(本/m <sup>2</sup> )		
	300以下	300-600	600以上
400	N4	N2	N2
500	N4	N4	N2
600	N6	N6	N4

注) 図4から作成

注) N2, N4, N6は、窒素成分で2kg/10a、4kg/10a、6kg/10aの追肥量を表す。

### [普及のための参考情報]

1. 普及対象：農業改良普及センター等指導機関
2. 普及予定地域・普及予定面積等：根雪期間が80日以下の平坦地、200ha
3. 本成果は、岩手県中南部における「ゆきちから」の栽培管理に準じ、播種は9月下旬~10月、基肥量を窒素成分4~6kg/10a、後期追肥を窒素成分2~4kg/10aの条件においてとりまとめた。
4. 播種量は、播種時の碎土率や土壤水分など条件に応じて加減する。
5. 原粒タンパク質含有率及び容積重が低下しないよう、平成26年度成果情報「超強力小麦「銀河のちから」の原粒タンパク質含有率と容積重を確保するための後期窒素追肥法」を参考に、後期追肥を確実に実施する。

[具体的データ]

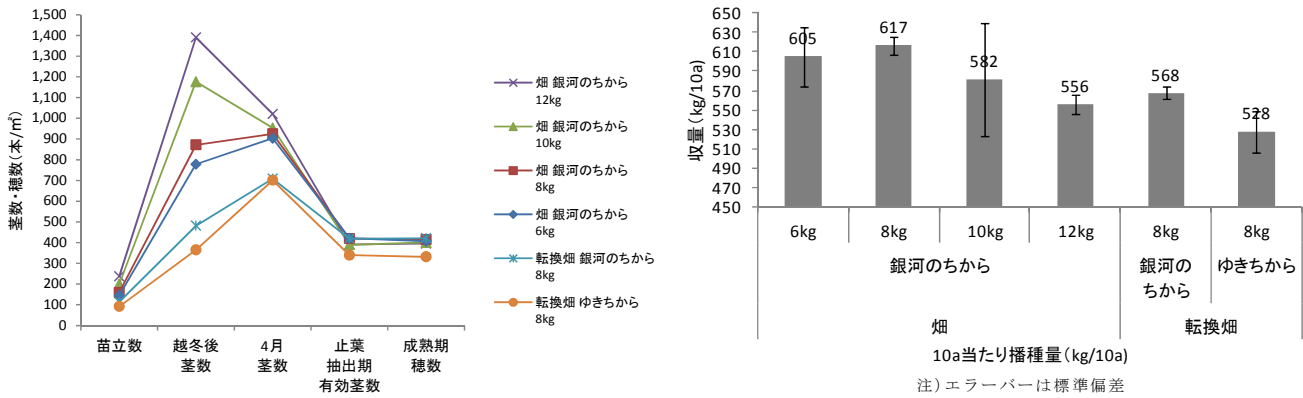


図1 播種量別の茎数・穂数の推移及び収量 (北上: 2015産)

播種量が多いほど茎数は多くなるが、最終的な穂数はほぼ同等となる。播種量10kg/10a以上では収量が低下する。

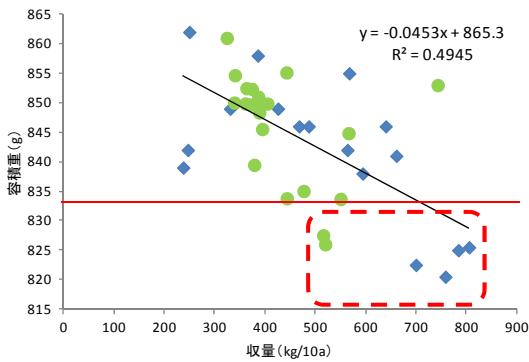


図2 収量と容積重の関係

(北上、現地: 2014,2015産 転換畑)

収量が増えると容積重がランク区分基準値 833gを下回る頻度が高まる。

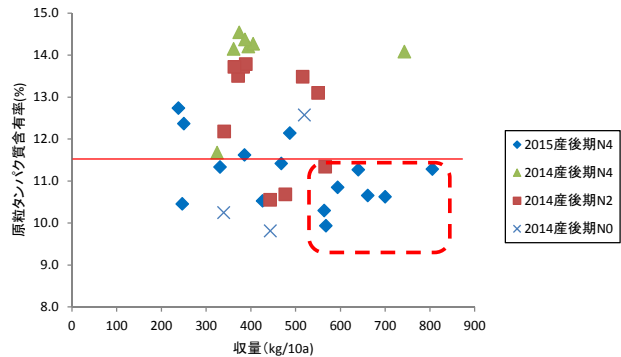


図3 収量と原粒タンパク質含有率の関係

(北上、現地: 2014,2015産 転換畑)

収量が増えると原粒タンパク質含有率がランク区分基準値 11.5%を下回る頻度が高まる。

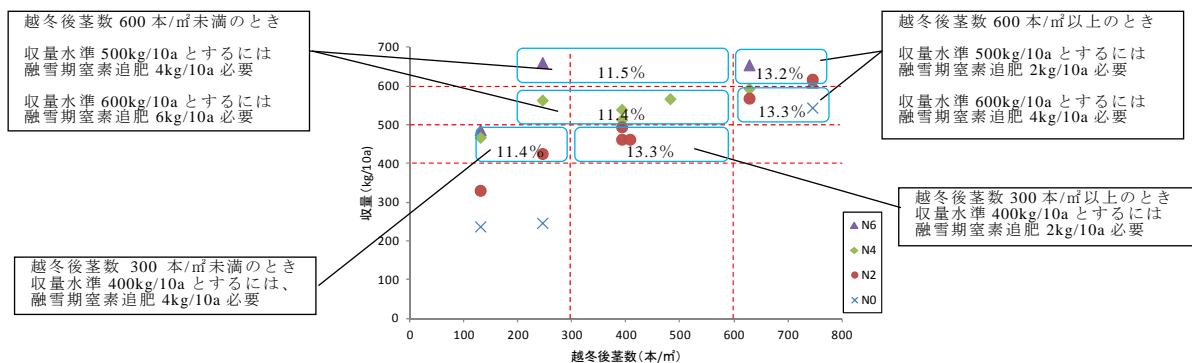


図4 越冬後茎数と融雪期追肥量及び収量の関係 (北上: 2013,2015産 転換畑・畑)

注1) 越冬後とは、融雪後、ほぼ停止状態にあった茎葉が再び成長し始める時期を指す。  
注2) 図中の数値は、後期追肥を N2~4kg/10a 施用した時の原粒タンパク質含有率の平均値。

(小原公則、高草木雅人)

[その他]

研究課題名: 麦類の奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査

予算区分: 県単

研究期間: 2013-2015年度

研究担当者: 小原公則、高草木雅人

発表論文等: なし